



木まち第19-32号
平成19年 5月 1日

国土交通省道路局長 様

木古内町長 大 森 伊 佐 緒



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について

平成19年4月2日付国道企第114号にて依頼のありました標記について、別紙のとおり提出します。

木古内町まちづくり新幹線課
まちづくり推進係長：片桐
電話：01392-2-3131 (内線 221)
FAX：01392-2-3622
E-mail：kazumi-katagiri@town.kikonai.hokkaido.jp

「道路財源の安定的な確保」に関する意見書

北海道を取り巻く道路施策の情勢は良いものとは言えない。広大な土地の中に点在する主要都市。しかしながら、これらを結ぶ高速交通のインフラ整備が未だ進んでいかない状況にある。

都市部への一極集中が進み、地方部の人口減少や産業の衰退が叫ばれている中、都市部と地方が高速交通で繋がることにより、居住地の郊外移転や、物流ネットワークの拡充による生産者の活性化、また、急速に高齢化が進む北海道では、高次医療への依存が高まることが予想される。道内において高次医療を享受できるのは都市部に限られることから、高速交通ネットワークの確立が北海道という土地においては最も必要な整備であると考えます。

また北海道特有の自然や新鮮な食は、団塊の世代の方々にとって魅力ある観光資源となります。シーニックバイウェイなどの景観を意識した広域観光も注目されてきている中、観光資源開発においても、多くの可能性を秘めた北海道は、高速交通網が整備されることにより、道内の景気も回復されていくものと期待されます。

こうしたことから、北海道における道路整備については、今後においても推進していただきたく要望します。

1) 高規格幹線道路の整備促進

高規格幹線道路は当町にとって大変重要な道路施策であります。古くから松前方面や江差方面への交通の要衝の町として栄えてきた町であります。高規格幹線道路においても、木古内ICが各方面への分岐点となります。

道南圏の主要都市となる函館市が道南地域における産業の中心であることから、自動車専用道路が整備されることにより、函館市までの移動時間が大幅に短縮されます。また、当町においては、函館市へ通勤されている方が就業人口の約12%を占め、現状においても通勤圏内にあります。木古内ICが開通することにより、函館市までの通勤がさらに短縮され、また、冬期間における交通事故も減少するものと思われれます。

もう一つ大きな理由とすれば、高次医療の提供があります。高齢者比率が高い当町では、医療・福祉の充実が町の重要な課題であります。町にも医療機関はありますが、高齢者が多い当町では、高次医療に依存する傾向が高くなってきています。高規格幹線道路が一日も早く完成されることにより、当町のみならず、渡島西部地域また、檜山南部地域においても、函館市への救急輸送がより短縮され、救急医療の観点からも大変重要な道路となります。

こうしたことから、高規格幹線道路の意義と地方における必要性について整備の促進を強く要望します。

2) 北海道新幹線開業に伴う道路整備

木古内町は北海道新幹線開業時における北海道最初の駅として、全国から来道する旅行者などに北海道を印象づける重要な町となります。

このため、駅周辺については一般生活用道路とは性質の異なる、まちなみや景観に十分配慮し、人の流れや物の流れを意識した観光的視点における駅周辺の道路整備を行なうことが、新幹線を意識した「まちづくり」の最大の課題であり、開業に間に合わせるためには早急な整備が要求されます。

この他に、木古内駅からは現在においても、路線バスが4路線発着しており、北海道新幹線開業後はさらに、渡島西部地域、檜山南部地域の交通の拠点として位置づけられます。このため木古内駅を中心とした主要道路へのアクセス整備や、大型の路線バスや観光バスが安全に走行することができる急カーブ箇所の線形改良など、将来の新幹線利用客を広域的に観光させるためのルート開発と道路整備を図っていく必要があります。当町や、道南圏また、北海道全体の将来的なビジョンを確立するためにも、関連する道路整備を強く要望します。

3) 国道228号維持管理

木古内町と函館市を結ぶ一般国道ですが、当町は特別豪雪地域の指定を受けるほど年間の降雪量が多く、町道の除排雪経費については、多額な予算を投じております。

国道228号においても、当町地域では、他地域と比較しても道路脇に堆積する雪の量が非常に多くあり、交差箇所での見通しの悪さが交通事故に繋がり、交通安全上大変危険であります。このため、国道における除排雪対策の強化や、凍結防止剤等の散布また、路面の修繕など既存道路の維持についても所要の施策を講じていただくことを要望します。また、国道内の橋梁においてもかなりの年数が経過し老朽しております。今後は橋梁の耐震調査や点検業務など道路管理者として安全対策の強化を図っていただきたい。

平成19年 5月 1日

北海道上磯郡木古内町長 大 森 伊 佐 緒

